

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

豊田市美術館 プレスリリース

2023.12.12



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



未完の始まり —未来のヴンダーカンマー—

Wunderkammer to Come: From the Uncompleted, a Beginning

2024年1月20日[土] - 5月6日[月・祝]

休館日 : 月曜日 [2月12日, 4月29日, 5月6日は開館]

開館時間 : 午前10時 - 午後5時30分 (入場は午後5時まで)

主催 : 豊田市美術館

協力 : ANTENNA SPACE, Taguchi Art Collection, TAKE NINAGAWA, PERROTIN, AGC株式会社、豊田カントリー倶楽部

会場 : 豊田市美術館 展示室1、8

観覧料 : 一般1,500円 [1,300円] / 高校・大学生1,000円 [800円] / 中学生以下無料

* []内は前売券及び20名以上の団体料金

* オンラインチケット : 当日の観覧料金から100円割引 (他割引との併用不可)

* 前売券 : 豊田市美術館 (12月24日まで)、オンラインチケット (アソビュー!) (1月19日まで)、T-FACE B館2階インフォメーション (1月19日まで)、メグリア11店舗 (1月19日まで、取扱店舗: 本店、エムパーク店、セントレ、藤岡店、三好店、若園店、志賀店、朝日店、井上店、はなぞの店、うねべ店)
※ T-FACE、メグリアの営業日や時間は、各店舗ホームページをご確認ください。

* 次の方は観覧料が無料になります。(要証明)

- ・ 障がい者手帳をお持ちの方 (介添者1名)
- ・ 豊田市内在住又は在学の高校生の方
- ・ 豊田市内在住の18歳以下の方 (満18歳から最初の3月31日まで)
- ・ 豊田市内在住の満70歳以上の方

* その他、観覧料の減免対象者及び割引等については、当館ウェブサイトをご確認ください。

展覧会名 未完の始まりー未来のヴンダーカンマー
Wunderkammer to Come: From the Uncompleted, a Beginning

開催趣旨 絵画や彫刻に加え、動物の剥製や植物標本、地図や天球儀、東洋の陶磁器など、世界中からあらゆる美しいもの、珍しいものが集められた「ヴンダーカンマー（驚異の部屋）」。15世紀のヨーロッパで始まったこの部屋は、美術館や博物館の原型とされています。それは、見知らぬ広大な世界を覗き見ることができる、小さいながらも豊かな空想を刺激する空間でした。しかし、大航海時代の始まりとともに形成されたヴンダーカンマーには、集める側と集められる側の不均衡や異文化に対する好奇のまなざしも潜んでいました。

グローバル化が進み、世界が加速度的に均質化していくなかで、今改めて文化や伝統とはなにか、また他文化や他民族とどう出会うかが問われています。かつて「博物館行き」は物の終焉を意味する言葉でしたが、5人の作家たちは歴史や資料を調査・収集して、現代のテクノロジーを交えながら、時を超えた事物の編み直しを試みます。美術館の隣に新しくできる博物館の開館にあわせて開催する本展では、文化表象の実践の場としてのミュージアムの未来の可能性を探ります。

出展作家 リウ・チュアン、タウス・マハチェヴァ、ガブリエル・リコ、たむら ゆういちろう田村友一郎、ヤン・ヴォー

作家略歴 ■リウ・チュアン Liu Chuang

1978年湖北省(中国)生まれ。上海拠点。

映像、彫刻、インスタレーション、パフォーマンスと多岐に渡るリウ・チュアンの作品は、急激に変化する現代の中国の姿を映し出します。フィールドワークによる世界の周縁や都市のインフラストラクチャーの調査を交えた近年の映像作品では、サイエンスフィクショナルな想像力が、地域固有の伝統や文化の未来の行方を占います。

本展に出品する最新映像《リチウムの湖とポリフォニーの島II》(2023年)では、エネルギーの獲得や情報の集積と連動するグローバル経済が世界を画一化していくなか、なお豊かで多様な文化的、民族的な声や音楽が存在することを知らせます。

主な展覧会: 個展「Lithium Lake and Island of Polyphony」ANTENA SPACE (上海/中国)
2023年、「もつれるものたち」東京都現代美術館(東京) 2020年、「アジア・アート・ビエンナーレ2019」(台中/台湾) 2019-2020年

作家略歴

■タウス・マハチェヴァ Taus Makhacheva

1983年モスクワ(旧ソビエト連邦)生まれ。モスクワ及びドバイ(アラブ首長国連邦)拠点。

タウス・マハチェヴァは、歴史記録や文化的遺物、個人的な記憶を、ユーモアとアイロニーに壮大な空想を加えて、映像や彫刻、インスタレーションとして展開します。それらの作品では、旧ソビエト連邦下にあったダゲスタン共和国の自身のルーツをもとに、近代以降の伝統のありか、文化の真正性、国家と結びつくアイデンティティが考察されています。本展では、新作を含む映像のほか、彫刻、レリーフ、オブジェを展示します。映像作品《Tsumikh(鷹にて)》(2023年)では、日本でも知られる詩人であり祖父であるラスール・ガムザートフの国民的詩人としての記録と私的な記憶の差異を浮かび上がらせながら、なにが公的な像を形成するのかを問います。

主な展覧会：「第14回光州ビエンナーレ」(光州/韓国) 2023年、「横浜トリエンナーレ2020」(横浜) 2020年、個展「Cloud Caught on a Mountain」、モスクワ市近代美術館(モスクワ) 2017年

■ガブリエル・リコ Gabriel Rico

1980年ラゴス・デ・モレ(メキシコ)生まれ。グアダラハラ(メキシコ)拠点。

ガブリエル・リコは、動物の剥製、貝殻や枝などの個人的な思い出など、発見・収集した素材にネオン管などの日常的な物を組み合わせ、現在の人間と神話、また自然環境との新たな関係を探ります。有機的な素材と無機的な方程式や幾何学との結合は、宇宙の自然法則を把握しようとする作家の探究心の表れです。

本展では、長く共同制作を行ってきたメキシコの先住民に捧げた作品を展示します。動物崇拝に基づく鹿を取り入れた作品や、彼らの伝統的な技である毛糸絵やガラスビーズを用いた作品を展開し、現在の消費社会と神話を再び結びつけます。

主な展覧会：個展「THE PROPAGATION OF TEURÁRI」ペロタン東京(東京) 2023年、個展「The Discipline of the Cave」アスペン・アート・ミュージアム(アスペン/米国) 2019年

作家略歴

■田村友一郎 Yuichiro Tamura

1977年富山生まれ。京都拠点。

田村友一郎は、土地固有の歴史や文化、大衆の関心、自身の興味に基づく幅広い題材から、ときに意外な方法でそれらを繋ぎ合わせ、映像を含むインスタレーションを制作します。逸脱や迂回にみえる制作過程を経て独自のナラティブを構築するその作品は、フィクション性やフェイク感のなかに、国家のヘゲモニーや文化的コンプレックスといった重要な問題が現われます。

田村の作品の多くはその都度制作されるコミッションワークですが、本展でも時空を超えた人類規模の技術の進展を扱う新作を発表します。

主な展覧会：「国際芸術祭あいち2022」（愛知）2022年、「アジア・アート・ビエンナーレ2019」（台中/台湾）2019年、個展「叫び声／Hell Scream」京都市立芸術大学 @KCUA（京都）2018年

■ヤン・ヴォー Danh Vo

1975年バリア（ベトナム）生まれ。ベルリン拠点。

幼少時に家族とともにベトナムから逃れてデンマークで育ったヤン・ヴォーは、亀裂の入った東西の文化背景を持ちます。その作品には、自身や家族の経験と、彼らの存在を否応なく翻弄する世界の覇権、そして欧米を中心とした文化の真正性の解体とその修復が窺われます。作品に用いられるギリシア彫刻やキリスト像などの美術品、木箱や椅子などの日用品、オークションで買い集められたベトナム戦争に関わる私物は、ときに直接的、ときに比喩的に、詩のごとく空間に配置されます。

ヴォーは本展で、自らが育てる庭の花々をiPhoneで撮影した写真を展示します。生育環境に関わらず切り取られて流通される花々は、人の生にも重ねられます。

主な展覧会：「Danh Vo」ウィーン・セセッション（ウィーン/オーストリア）2021年、「ヤン・ヴォー ーオヴ・ンヤ」国立国際美術館（大阪）2020年、「Noguchi for Danh Vo: Counterpoint」M+ パビリオン（香港）2018年、「Danh Vo: Take My Breath Away」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク/米国）2018年

■ 展覧会のみどころ

■ 博物館の開館にあわせた企画

2024年4月26日に、美術館の隣に地域の歴史・文化・産業や自然などをテーマにした総合博物館が開館します。本展は、この博物館の開館にあわせて行うものです。博物館や美術館などのミュージアムの原型は、15世紀から18世紀にかけてヨーロッパの王侯貴族の邸宅に設けられた「驚異の部屋（ヴンダーカンマー）」にあるといわれます。その後18世紀の啓蒙の時代に入り、美術品や博物資料などの収集品の公開は、社会の進歩に貢献する教育的・道徳的意義を持つとの理念に基づいて、美術館や博物館が設立されるようになりました。21世紀の現在、植民地時代に収奪された遺物の返還や、白人男性を中心に編まれてきた美術史の再検討が進み、欧米を中心に形成されてきたミュージアムの見直しが世界中で行われています。新しい博物館が開館する今、改めてミュージアムと社会との関係や、展示における政治的・美学的意義を探ります。本展の作家たちは、国や地域のアイデンティティとはなにか、画一化していく世界のなかで伝統はどうなっていくのか、文化の真正性とはなにかを、未来に向けて問いかけます。

■ 「博物館行き」は事物の終焉？

かつて「博物館行き」とは物の生命の終わりを意味しましたが、事物はそのものに価値を内包しているわけではなく、その意味を作るのは人間です。近年現代美術において、文化人類学的思考や歴史研究的アプローチが取り入れられるようになり、作家たちが事物を別の文脈に置き直したり、まったく異なるものと組み合わせることで、新たな意味が生まれてきます。本展では、懐旧的なだけではない、事物の新たな姿や意味を見出します。

■ 新しい博物館と美術館

豊田市博物館の建築は、環境に配慮した建築で知られる世界的な建築家・坂茂氏^{ばん しげる}（1957年生まれ）によるものです。坂氏の博物館は、谷口吉生氏^{たにぐち よしお}（1937年生まれ）による美術館のミニマルかつ端正な建築の隣に、21世紀型のエコ建築として開館します。本展では、ミュージアムと社会や地域の関係が変容しつつある21世紀において、博物館の領野である技術の進展、環境との関わりなどの視点から作品を展開します。あわせて、博物館と美術館における事物や作品、また展示方法の違いについて考察します。

カタログ

出版：HeHe

刊行予定日：2024年3月中旬

価格：未定

東浩紀（哲学者）と担当学芸員の論考掲載予定

*発売日等の詳細は、美術館ウェブサイト等でお知らせします。

関連プログラム

【出品作家によるトーク】

- ・タウス・マハチェヴァ（出品作家）+ 鴻野わか^{こうの}か^な菜（ロシア現代美術・詩研究）対談
1月20日[土] 午後2時- 美術館講堂
- ・リウ・チュアン（出品作家）トーク
1月21日[日] 午後2時- 美術館講堂
- ・田村友一郎（出品作家）+ ミラクルひかる（ものまね芸人）（仮）
〇月〇日[〇] 午後2時- 美術館講堂

【担当学芸員によるスライドトーク】

1月28日[日]、2月17日[土]、3月30日[土]
いずれも午後2-3時 美術館講堂

*他の関連プログラムは、決まり次第随時ウェブサイトを更新します。

同時開催

新収蔵品展

期間：2024年3月19日[火]-5月6日[月・祝]

休館日：月曜日[4月29日、5月6日は開館]

主催：豊田市美術館

会場：展示室4、5

観覧料：一般300円[250円]／高校・大学生200円[150円]／中学生以下無料
[]内は20名以上の団体料金

お問い合わせ

豊田市美術館

〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

<https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail. bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

展示内容に関するお問合せ 学芸担当：能勢^{のせ}、石田 Tel. 0565-34-3131

掲載依頼・取材等に関すること 庶務担当：籠谷^{こもりや}、吉兼^{よしかね} Tel. 0565-34-6748



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

「未完の始まりー未来のヴァンダーカンマー」 広報用画像について

当館ウェブサイト「広報用画像ダウンロード」申込みフォームより、ご希望の画像を申請してください。
「広報用画像ダウンロード」の画像提供サービスは、パソコンでのみダウンロード可能となります。
パソコンからのお申し込みが難しい方は、以下を記入のうえ、Faxでお送りください。

送り先：豊田市美術館 庶務担当 吉兼（よしかね）、籠谷（こもりや）
Tel:0565-34-6748 Fax:0565-36-5103
e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前	様	ご所属
Tel		Fax
e-mail		必要な画像等の番号
掲載紙／メディア名		発売、放送予定日 月 日 (月号、vol.)
必要な観覧券枚数(最大5組10名分)	枚	観覧券の送付先 [〒]

*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



1



2



3



4



5

1 リウ・チュアン《リチウムの湖とポリフォニーの島II》2023年 Cortesy of the artist

2 タウス・マハチェヴァ《Tsumikh(鷹にて)》2023年 Cortesy of the artist

3 ガブリエル・リコ《El Horóscopo de Jesús (Dan, Richard & Joseph) II》2023年 Photo by Keizo Kioku Courtesy of the artist and Perrotin

4 田村友一郎《Ars》2017年

5 ヤン・ヴォー ギュルデンホーフ、2023年10月 photo credit: Nick Ash

なお資料の使用には以下の点にご注意ください。

・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮いただき、クレジットを表示してください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 画像送付 校正 修正 配信・配本